

アドバンス・ケア・プランニングの地域住民への普及啓発について

1 目的

医療と介護の両方を必要とする状態の高齢者が、住み慣れた地域で自分らしい暮らしを人生の最期まで続けるには、地域住民が在宅医療や介護について理解し、在宅での療養が必要になった場合に、本人の希望により、必要なサービスを適切に選択できることが重要となる。そのためには、地域住民が人生の最終段階におけるケアのあり方や在宅での看取りについて理解することが必要であるため、啓発活動の促進を図る。

2 令和4年度の実施内容（令和5年1月16日現在）

(1) 普及啓発

ア 冊子「私の心づもり・人生の彩ノート」を用いて、地域住民の医療や介護に関わる意思決定を支援した。

	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
冊子の印刷数(冊)	1,500	3,000	11,000	5,500
配布数(冊)	3,120	2,215	4,000	2,500
講話等の開催(回)	12	14	21	18
参加者数(人)	622	335	922	1,294

イ 「市政だよりくれ」(令和4年12月号) 特集(資料4別紙1)

「認知症との共生」をテーマに、呉市出身でドキュメンタリー映画の信友直子監督のインタビューを通じて、意思決定の大切さを発信した(97,000部発行)。

ウ 呉共済病院と協働で啓発動画作成

エ 市民公開講座の開催(資料4別紙2)

日時 令和5年3月11日(土)

内容 テーマ 元気な時から人生会議

～縁起でもない話をもっと身近にしてみよう～

講師 杏林大学保健学部 准教授 角田 ますみ 先生

座長 呉市在宅医療・介護連携推進検討委員会 委員長

石井 哲朗 先生

オ ACP 普及推進員の活動

広島県がACP(人生会議)の普及促進を地域で取組むため、医療・介護等の専門職をACP普及推進員として養成

【呉市内の ACP 普及推進員数】

(人)

	令和 2 年度	令和 3 年度	計
医療関係者	—	9	9
介護関係者	5	9	14
行政	—	1	1
計	5	19	24

【活動回数】 令和 3 年度 7 回 (224 人) 令和 4 年度 3 回 (64 人)

(2) 地域資源の見える化

地域資源情報データベース (資料 1) として市民サイトを構築 (令和 5 年 2 月公開予定)

(3) ACP に関する調査

ア 高齢者施策等に関するアンケート調査 (資料 4 別紙 3)

地域住民の ACP の認知度, 最期を迎えたい場所等についてのニーズを把握するための調査を実施 (別紙 3, 令和 5 年 3 月実施予定)

イ 高齢者入所施設における意思決定支援への取組状況調査

「人生の最終段階における医療・ケアの決定プロセスに関するガイドライン (平成 30 年 3 月)」の改訂により, 医療・ケアチームに介護従事者も含まれることが明確化されたことにより, 医療・ケアチームで本人・家族の意思決定を切れ目なく支える体制を構築する資料とすることを目的とし, 高齢者入所施設における意思決定支援への取組状況 (令和 5 年 1 月実施)

3 今後の対応

(1) 普及啓発

冊子「私の心づもり・人生の彩ノート」を活用した普及啓発を継続

(2) 地域資源情報の充実と地域住民への活用促進

資料 1 参照

(3) 医療・介護関係者研修会の開催

意思決定支援を含む在宅療養について専門職として共通認識しておくことが望ましい基礎的事項と実践例についての「学び」と「顔の見える関係づくり」の場を創出

(4) 関係機関の連携強化

医療・介護関係者間で, 本人・家族の意思決定を切れ目なく支援できる体制づくりへの検討